

2022年11月11日

開催国組織委員会

「

「WMHマスターズホッケーワールドカップ2022東京大会」報告書

1 WMHマスターズホッケーワールド2022東京大会概要（以下本大会）

- ・内容：世界各国の60歳以上の男子シニアによるホッケーの国別・年齢別対抗戦
- ・日程：2022年10月18日（火）開会式 ～ 29日（土）12日間
- ・会場：大井ホッケー競技場2面（メインピッチ・サブピッチ）
- ・参加国：12ヶ国 27チーム 来場者約800名
- ・主催：公益社団法人 日本ホッケー協会（JHA）
- ・公認：国際ホッケー連盟（FIH）、世界マスターズホッケー（WMH）
- ・後援：東京都
- ・主管：東京都ホッケー協会、日本ホッケー協会マスターズ部会

2 協賛団体

- ・オフィシャルパートナー 品川区役所 カンロ社株式会社 三菱スポーツ株式会社
- ・オフィシャルサポーター キッコーマン株式会社 株式会社プリンスホテル ヤエガキ酒造
- ・オフィシャルスポンサー 日本スポーツ振興センター
- ・支援団体 陸上自衛隊中央音楽隊 東京品川病院 しながわ観光協会 宿場JAPAN リンク

ス 東京都競馬場 東京モノレール J T B 日本体育大学 ゼネラル企画 (株) J M

ケーフォープレニング

3 大会スケジュール

- ・ 防具&パスポートチェック 10月17日、18日
- ・ 開会式 10月18日 15時～
- ・ 監督会議・競技役員会議 10月18日 17時～19時
- ・ 競技開始 10月19日 8時～
- ・ エキジビションマッチ 10月22日 18時～19時30分
- ・ トーナメントディナー 10月28日 18時～
- ・ 閉会式 10月29日 16時～

4 大会役員

WMH President Glenn Paton, WMH Event Manager Ishbel DICKENS,
Japan Masters President Junichi SEKIYA, Japan Masters Secretary Kenji HAMANAKA
JHA Secretary General Nobuo ISHIKAWA, WMH/JHA Liaison Kevin DEMPSTER
JHA Visa Operations Koichi Uchiyama, Venue & Equip. Manager Yoshiya KANNO
Information /Media Manager Yoshimatsu UMEZAWA, Medical Services Takeo ARAI
Accommodation Manager Fusao SATO

5 競技役員

TD Technical Director Kiyoshi SANA,
ATD Fiona HARRISON, Yutaka HIRAO, Anthony MAVRIDIS
UM Umpire Manager John HERON
AUM Terry MASON, Alan WATERMAN, Naomi KATO

6 競技フォーマット

(60歳以上)

プールA イングランド、日本、南アフリカ共和国、イタリア、カナダ、日本 SOM

プールB 豪州、スコットランド、米国、シンガポール、マレーシア、S X・SOM

(65歳以上)

豪州、日本、アイルランド、南アフリカ共和国、米国、マレーシア、S X・SOM

(70/75歳以上)

プールA 豪州、日本70、S X・SOM、日本75

プールB ウェールズ、南アフリカ共和国、アライアンス70 SOM、日本70 SOM

7 競技成績

(60歳以上)

優勝 豪州、2位 イングランド、3位 マレーシア

(65歳以上)

優勝 豪州、2位 アイルランド、3位 日本

(70/75歳以上)

優勝 ウェールズ、2位 南アフリカ共和国、3位 豪州

(SOM 60歳以上)

優勝 S X (サザンクロス)、2位 日本 SOM

(SOM 70歳以上)

優勝 SX (サザンクロス)、2位 アライアンス70SOM、3位 日本70SOM

8 大会総括

- ① 本大会は、東京五輪開催後の2020年11月に開催される予定であったが、新型コロナによるパンデミック問題により、2年延期されて2022年10月に開催された。2020年の大会開催予定の参加チームは68チームであったが、2022年の本大会はコロナ感染拡大の後遺症、ウクライナ情勢の深刻化、日本政府の外国人水際対策問題等が影響して、27チームの参加となった。
- ② 開催国組織委員会は、政府の水際対策が緩和されず、大会開催自体が危ぶまれる状況下、大会参加者の入国ビザ取得を、ERFS 制度 (JHA が外国人の受入れ責任者となって VISA を発給・取得) を活用して、参加チームが大会に参加出来る様に、国内関係官庁、及び在外公館に働きかけ、参加する選手、役員、及びその同伴家族に優先的にビザ取得ができる様に援助を依頼した。それらの対策が奏功して、海外からの大会関係者約670人は、短期滞在ビザが発給されることとなった。その後、大会開催直前の10月11日には、日本政府が外国人の入国規制を大幅に緩和し、外国人の入国時の混乱はなかったのは幸いであった。
- ③ 公式練習については、大会参加の全てのチームが16日～18日の練習場を予約した。東京五輪大会で使用されたピッチ、施設を大会本番前に確認し、調整をしていた。
- ④ 開会式は、陸上自衛隊中央音楽隊の演奏に合わせて、全ての参加チームが入場行進した。行進の前には音楽隊の歓迎演奏もあり、スタンドを大いに盛り上げてくれた。開会式の来賓挨拶は、

JHA 会長 三須和泰様、東京都副知事 潮田勉様、WMH 会長 グレン ペイトン様の 3 氏が行った。来賓臨席は、元 JHA 会長 中曽根弘文様、外務省参事官 松尾裕敬様、品川副区長 桑村正敏様、アジアホッケー連盟 小倉文雄様。来賓挨拶の式典が終了後、選手は退場しスタンドに着席して日本体育大学の学生による日本伝統芸能を鑑賞した。和太鼓、日本舞踊、大旗振りの演舞に場内は歓声が上がった。心配されていた空模様も途中には青空も見られて、開会式は緊張感の中にもパフォーマンスの素晴らしさに感動があり、印象深い式典との評価であった。

- ⑤ 10月19日から始まった試合は天候にも恵まれて、順調にスケジュール通りに消化されて行き、最終日まで試合日程の変更は生じなかった。
- ⑥ 競技は、TD、UM の統率のもと、チームワークの良さを発揮して順調に運営された。
- ⑦ 10月25日からライブ配信を開始したが、予想以上に好評であった。
- ⑧ 医療・及びコロナ対策面では事前にマニュアルを作成し、インフォメーションパックに掲載した。会場への入場の際は、検温、消毒を義務付け、また選手ベンチ、チェンジングルームの使用後の消毒も徹底的に実施した。
- ⑨ 試合中に体調不良、打撲による負傷が散見されたが、場内に待機している医師・看護師の応急処置で対応出来た。大事を取って、品川東京病院に救急搬送された選手が2人いたが、診察後は無事当日にホテルまで自力で戻った。
- ⑩ 10月25日に、あるチームの選手1人がPCR検査で陽性となり、東京都指定の療養所で隔離されているとの報告があった。感染対策マニュアルに従い、当該チーム全員の抗原検査を実

施した結果、5名が陽性となり、ホテルでの待機を義務付けられた。その後のPCR検査では、2人は陰性が確認され、公式の陰性証明書を大会本部に提出し最終戦に出場した。

- ⑪ トーナメントパーティーは、10月28日18時から明治記念館で開催された。参加者は、約480名であった。コロナ感染予防の為、開催会場は屋外を選定し、同時に日本庭園の素晴らしさをアピール出来る様に企画した。式次第は、HNOC代表者の挨拶、お琴の演奏、各国代表の余興。各国の余興のアイデアはお国柄が出て、大いに盛り上がった。遅れて到着した参加者は食べ物が少なく、クレームとなってしまった。アルコール飲料は十分であったが、食べ物の数量選定に問題があったことは反省材料である。
- ⑫ 最終日の優勝決定戦と3位決定戦は、試合に臨むチームの国歌を流した。閉会式はセレモニーではなく、各年齢別のメダル授与の表彰式の形で行われた。表彰は、優勝、2位、3位には、金銀銅のメダル授与。優勝チームにはWMHトロフィーとHNOC-TOKYOトロフィーが贈呈された。

9 所感

- ① 本大会は開会式から最終日まで天候に恵まれ、大きな事故もなく、成功裏に閉幕した。
- ② 大会の成功は、開催国組織委員会の事前の準備と実行面で競技役員の運営が噛み合うことが重要な要素であるが、本大会においては情報共有、実行面での意思疎通が上手く機能して、円滑に運営されたと評価されるのではないか。
- ③ 長期間の大会ゆえに運営面で多くの人材が必要とされたが、ボランティアの方々、チームリエゾンのメンバーが献身的に活動された。その人材は東京五輪大会のボランティアで活動さ

れた方々、近年、東京都ホッケー協会主催のイベントにボランティアとして活動されてきた方々であった。今後とも、大井ホッケー競技場で開催される多くの大会を支える人材として期待したい。

- ④ 本大会では、大会ロゴをデザイナーの松岡氏に作成を依頼した。葛飾北斎の神奈川冲浪裏をモチーフにした大会ロゴは非常に好評で、自前のジャージ等に大会ロゴを使用した外国チームがいくつか見受けられた。また大会ポスターは、フランスのマスターズ選手で画家でもあるピエール氏の作品で、これも大変好評を博した。多数の方々からの要望を受けて、増刷して各チームに配布するほどであった。
- ⑤ 組織委員会の大会コンセプトは、1 安全・健康、2 財政均衡、3 おもてなしの3つであった。おもてなしの面では、品川ファンゾーンの観光支援、品川2020ホッケー少年団との交流試合、東京品川病院の支援、ケータリングの飲食サービス、大会記念グッズの提供等、品川地域社会との交流、支援を中心に成果を上げられたと評価する。この実績が今後ホッケー協会と品川街作りの面でコラボレーションの一助となれば幸甚である。
- ⑥ 最後になるが、大井ホッケー競技場で開催された本大会が、日本ホッケー界の更なる発展に寄与することを期待したい。

以上